浄心寺だより

発行
浄心寺門信徒会
郵便番号714-0081
笠岡市笠岡2065
電話(0865)62-2623
FAX(0865)62-2595
振替01260-9-13760
http://joshinji.suki-ari.net/

「和顔愛語（わげんあいご）」

羽溪了諦師筆

『無量寿経』のことば。
「和やかな表情で、やさしいことばを口にしましょう」
（岡山市 西江澄江さん 寄贈）

羽溪了諦（はたに りょうたい）

1883年8月17日～1974年8月13日
福井県遠敷郡出身。明治16年生まれ。
1909年京都帝国大学文科大学哲学科を首席で卒業。同大学院を経て、1927年助教授、1935年教授。1921年龍谷大学教授を兼ね、1931年大谷大学教授を兼ねる。1934年「西域仏教ノ特徴」で京大文学博士。1936年龍谷大学長。1943年京大定年退官。
京大、龍谷大、京都女子大学各名誉教授。浄土真宗本願寺派総務。1955年紫綬褒章、勲三等旭日中綬章受勲。1945年戦後のGHQ指導のもとの教育刷新委員会において教育基本法原案の骨組みを担当した第一特別委員会のメンバー。

「み法を味わって」（三十二）

美しく生きる

顔やスタイル、若さや健康について人間の美しさをいうこともあります。しかし本来、人間は誰でも美しくなれることができるのです。

それは善いことをしようとする心、自分の周りの人やもののよいところに気づこうとする心を持ったときです。

自分や他人、環境や社会・時代などの欠点を見ることは、改善の努力をするためには大切なことです。しかし、ただ単にうらやみ、そねみ、愚痴をこぼすためなら、人生を次第に狭く、暗くし、人との距離を広げて、孤独にさせるだけです。

明るく、広々と、強く、心豊かで健康な美しい人生を、すべての人と共に生き抜くために、阿弥陀如来の教えによって真実に気づき、おかげさま、ありがとうと報謝の日々を過ごしたいものです。

鷹谷俊昭著『月ごとのことば』転載

ごあんない

報恩講

十二月四日（土）　十三時半より
ご法話　三次市
源光寺　福間玄猷師

秋季彼岸会 および永代経法要

九月二十二日（水）十三時半より、秋季彼岸会・門信徒総追悼永代経法要が勤まりました。心配された雨も上がり、蒸し暑い中でしたが多くのお参りがありました。

一同で阿弥陀経をお勤めしたのち、ご法話を拝聴。ご講師は福山市神辺町、光行寺住職の苅屋光影師でした。

先生は毎日ペットの犬を散歩されるそうですが、同じように犬を散歩される方と親しくなられたそうです。ところがそのワンちゃんが亡くなってしまいます。そして飼い主から、四十九日の法事を頼まれたそうです。犬の法事はしたことがないし、六道輪廻の世界観では「畜生」といって「人」より下に見られる生き物です。迷った挙句、お寺の本堂で法事をしたそうです。終えてみて、これまで一度もこの本堂に来られたことのない方が、ペットの死をご縁に本堂で手を合わせ、み教えに出会ってくださった。このことが何よりよかったことではないか、と思われたとのことです。

親鸞聖人はその師、法然上人を人としてではなく、阿弥陀如来の生まれ変わりとして見ておられました。阿弥陀さまがみ教えを伝えるために、法然として自分の前に現れてくださったのだと。

「阿弥陀如来化してこそ
本師源空と示しけれ
化縁すでに尽きぬれば
浄土に還りたまひにき」

（阿弥陀如来は変化（へんげ）して、法然上人として現れました。
［師による私への］教化の縁がもう尽きたので、お浄土にお還りになりました）

親鸞聖人は、阿弥陀如来の教え（『阿弥陀経』に説かれる教え、といった方がいいかもしれません）に出会えたことを何よりの喜びとし、そしてその教えを人生の拠り所として、しっかりと生き抜いていかれたのです。

虫干し法座 つとまる

法宝物虫干し法座が、七月十六日十三時半よりつとまりました。梅雨明けにもかかわらず、時折小雨の降るあいにくの天気でした。法要では『讃仏偈』をお勤めの後、住職が「中国真宗念仏行者御形見名号略縁起」を拝読。

ご法話は今治市大三島の万福寺副住職、浅野執持先生でした。初めてのご縁ですが、同寺には令和元年秋に仏婦研修旅行で参拝し、見事な桜のふすま絵を拝観させていただきました。

「弥陀の名号となえつつ、信心まことにうるひとは、憶念の心つねにして、仏恩報ずるおもひあり」というご讃題のもとお話しくださいました。このご和讃は『三帖和讃』の巻頭にあり、「誓願不思議をうたがひて、御名を称する往生は、宮殿（くでん）のうちに五百歳、むなしくすぐとぞときたまふ」の一首と合わせて「冠頭二首の和讃」とも呼ばれています。

「名号」というのは「あみださまのお名前」ということです。私たちは名前の呼び方によって、相手との距離感が変わるものです。「阿弥陀如来」というと遠い世界の仏さまのような感じがしますが、「なんまんだぶつ」というと、日頃お念仏している人にとっては、仏さまと距離感ゼロの一体感が感じられるのではないでしょうか。

「信心」というのは私の計らいを全く離れた、仏さまを１００パーセント信じることをいいます。１パーセントでも疑う自分がいることは本当の信心ではない、と親鸞聖人はいましめられました。

「憶念」とは信心に近いものですが、子が親を想う心のようなものです。しかし一方で、子が親を想う以上に親は子を想っているように、阿弥陀さまは私たちが信じている以上に私たちのことを願ってくださっている、といわれます。

最後に中島みゆきさんの歌『糸』の歌詞をみながら、み教えの縦糸に、自分なりの横糸を織りなして、人生という自分色の織物を紡いでいけたら、と締めくくられました。

やさしい仏教講座 第10回 8月21日（まとめ）

『お盆』

「浄土真宗ではお盆に特別なことはしません」といいます。

世間では「お盆に先祖の霊が帰ってくる」といいますが、実はこの考えは、仏教のものではないのです。日本で古来から考えられてきた民間信仰です。

また、仏教には『盂蘭盆経』というお経があり、これに基づいて先祖供養をするのがお盆である、ともいわれます。しかし実はこちらも、中国の祖先崇拝を反映したお経であるといわれます。

そうなると、お盆という行事は仏教とは関係がないことが分かってきます。しかし一方で、お盆は帰省のシーズンです。久しぶりに会う親族とともにお仏壇で手を合わせ、お墓参りをして、ご先祖に感謝するとともに、今の自分のいのちを見つめる機会にしていくことは大切なことです。

『お仏壇で何をしていますか？』

浄土真宗では「お墓よりもお仏壇」といいます。お墓には故人の遺骨がありますが、遺骨はもはや故人そのものではありません。故人は仏さまの世界に還っていかれました。そこでお浄土を表わしたお仏壇に手を合わせるのです。

お仏壇は家のご先祖だけをまつった場所ではありません。仏壇もお寺の本堂も、あらゆる命が還ってゆくお浄土を表わして作られていますから、同じ世界です。どこで手を合わせても、わたしたちとご縁のあるあらゆる命に、手を合わせていることになるのです。

お仏壇では、身近に亡くなった方々を偲びつつ、その方々を通じて、おかげさまの中でしか生きられない自分のいのちのあり方に気づかせていただくことが大切です。

『お寺での法要・儀式』

お寺では葬式や法事だけでなく、人生の節目となる儀式も行います。お子さんの誕生にあわせ、初めてお寺参りする「初参式」。法名をいただいて仏弟子（仏教徒）となる「帰敬式」。チャペルでも神道式でもない、仏前で行う「仏前結婚式」。仏教徒なら仏前結婚式をぜひ。

『家族葬とは？』

近年増えてきた家族葬ですが、その形態にはっきりとした決まりはありません。身内のどこまでを呼ぶか、親しかった人は呼ぶか、どんな葬儀にしたいかは、当家が考えねばなりません。そして葬儀社にしっかりと意向を伝えたうえで執り行うことが大切です。

『「平生業成」とは？』

「へいせいごうじょう」と読み、浄土真宗の教えを表わした言葉です。「ふだんの行い」と誤用されることもありますが、「生きている今、救われている」という意味です。浄土真宗では死んで初めて極楽浄土へ行って救われる、のではなく、今この世でこそ浄土の教えによって救われる、といいます。

お浄土の教えを拠り所に、しっかりと今を生きていくことが大切です。亡くなった方もお浄土へ、自分もいずれお浄土へ、死後の不安の消えた状態が、「救われてゆく」ということではないでしょうか。

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要の参拝日程決まる

再来年の令和五年四月十一日（火）、西本願寺での午前の法要に参拝することが決まりました。

今回は備中里組での団体参拝で、浄心寺は報恩寺、蓮乗寺、慈恩寺さんと合同でお参りします。日帰りで、浄心寺の定員は二十名です。

詳細はまたご案内します。

やさしい仏教講座 令和4年の予定

住職による「やさしい仏教講座」の来年の予定です。

『なるほど浄土真宗』というテキストに沿って進めています。夜席ですが、お誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

毎回十九時半より。

第13回	2月7日(月)
第14回	4月11日(月)
第15回	6月7日(火)
第16回	8月20日(土)
第17回	10月12日(水)
第18回	12月14日(水)

備後教区主催の第二十五回平和のつどいが十月二十一日午後一時より福山リーデンローズで開催されました。

当寺からは総代の藤井祐三、門徒推進員の松田勝由の両氏と住職の三名が参加。

まず全戦争犠牲者追悼法要として、正信偈をおつとめしました。

次に、宗派の制作した映画『ドキュメンタリー沖縄戦』の上映がありました。米軍が沖縄に上陸してから占領するまでを時系列で記録映像をみながら、体験談を折り込んで、どうして多くの人が犠牲になっていったのかを描いた秀作でした。本土のわれわれは沖縄の人々への理解がまだまだ足りないなと感じたことです。宗教色は一切なく、一般の映画館でも昨年は二十八館、今年も五館で上映されているそうです。

教学伝道研究室の香川真二先生より上映前後に講演がありました。映画作製の経緯など舞台裏のいいお話も伺えました。

やさしい仏教講座　第11回　10月12日（まとめ）

『ブッ・ポウ・ソウ』

ブッポウソウという鳥がいますが、その鳴き声の持ち主はコノハズクで、ブッポウソウは別の鳥です。いずれにせよ、その呼び名は「仏・法・僧」からきています。

コノハズク

ブッポウソウ

このように仏教に由来する言葉は私たちの身近にあふれています。数の単位「恒河沙」「阿僧祇」「那由多」や、「こんりんざい」「うちようてん」「げどう」「りちぎ」「ろれつ」「上品、下品」「縁起」「シャバ」「がまん」「～ざんまい」などの説明をしました。

『死ぬのが怖い。十五歳男子』

新聞の「人生案内」欄に寄せられた相談です。回答者は、偉人の自伝を読んで充実した生を学びなさい、と。確かに、生と死は表裏一体であり、一方を知ろうとすれば他方を知ることが大事です。ただ、死んでどうなるかは未解決なままです。そこで必要となるのが、本物の宗教です。お釈迦さまは方便の教えの一つとして「極楽浄土」を説かれました。それによって死への一つの解決ができ、今を生きることに目が向いてくることが大切なのです。

『仏教でおこなう儀式』

仏教ではお仏壇を構えた時の「入仏法要」、お墓を建てた時の「建碑式」を行いますが、実は家を建てる時の儀式は特に行いません。ところが世間では起工式、上棟式、竣工式を行うことがよくあります。これは神道の儀式であり、仏教とは全く違う世界観から行われるものです。また「定礎式」は西欧の習慣から来たものです。

仏教徒としては、慣習的にせざるをえない場合、仏教による儀式として行うのでいいでしょう。あるいは、工事に関わる人の宗教はさまざまでしょうから、無宗教での式でもいいかもしれません。

除夜会修正会

大晦日二十三時四十分ごろより除夜の鐘を撞きます。引き続き本堂にて、新年のおつとめをします。どうぞお参りください。

チョット一言　お布施について

当寺ではお布施の金額を決めていません。できる範囲で結構です、としか申し上げられないのですが、それには理由があります。

そもそも「お寺」というのは、門徒が共同で運営、護持していく組織です。住職はその門徒の方々に依頼されて、お寺に住み、布教をしたり儀式を執り行う立場なのです。そうです、「お寺」というのは門徒のもの、「あなたの」お寺なのです。

ですから、「お布施はおいくら？」と尋ねること自体おかしいのです。自分のことに使うお金ですから。

そして住職も、それをそのまま懐（ふところ）に入れるのではなく、すべてお寺に納めます。そしてのちほど、個人で自由に使える給与として、一定額を寺からいただくのです。それ以外はお寺の護持に使われます。もちろん、本堂建て替えなど、定期的に境内の大工事がありますが、その際の積立金としても貯めておきます。

門信徒の広場

地区委員さん登場

生江浜地区総代
藤井浩一郎さん

藤井さんは、平成5年から地区総代をされており、今年度からは前任者のご往生に伴い4・5区へと担当地区が変更となり十五戸を担当下さっております。

また、平成19年からは、門信徒会の監査も引き受けて頂いております。

日頃は、家業の醤油醸造・販売に精励されているとの事でした。最近の地区の様子や特色などをお聞きすると、他の地域と同様に、高齢化と核家族化により、地区在住者の減少が一層進み、将来的には門信徒の数も減り、会の運営が難しくなるのではないかと危惧しておられました。

また、コロナ禍の影響により、ここ一、二年は各種の行事等も中止となりましたが、早期の活動再開を願いたいとも話されておりました。

地区委員さんの交代

金浦北地区
（前）津田一成さん
（新）小林邦生さん
大磯西地区
（前）大石節子さん
（新）藤原眞治さん

前役員さんには大変お世話になってきましたが、それぞれご都合で交代されることになりました。これまでどうもありがとうございました。新役員さんにはどうぞよろしくお願いいたします。

予告

ダーナバザーの案内

令和4年4月17日（日）
浄心寺にて開催
物品の提供をお願いします。

仏婦清掃奉仕の中止 9/12

岡山県に緊急事態宣言が出ていましたので中止にしました。

ありがとう

◎水くみ場の足場工事

川辺屋地区の桝平一平さんが、境内墓地水くみ場の段差をうめる木製のスロープを作り直してくださいました。ありがとうございました。

◎羽溪了諦師の書

岡山市の西江澄江さんより、ご主人のご往生に伴い羽溪師の書を寄贈していただきました。師はご主人の母方の祖父にあたります。傷みが激しかったため、寺で額を作りなおしました。大切に伝えていきたいと思います。

十二月の地区委員会について

十二月四日に開催予定の地区委員会は、新型コロナ感染予防のため、会合を中止とし、資料を配布して開催に代えさせていただきます。ご意見等あれば浄心寺まで直接お知らせいただきます。

報恩講のお斎について

毎年仏教婦人会の皆様に調製いただいているお斎ですが、今年はコロナ禍のため、なしとします。

新春のつどいの中止

毎年一月に開催している当つどいですが、新型コロナ感染予防のため中止とします。

還浄（げんじょう）

（敬称略）

三宅	豊子	6・22	92
山本	准子	6・27	88
北村美智子		6・30	83
藤井	信子	7・8	94
髙橋	修而	7・9	89
豊原	昭利	7・15	84
小川	周子	7・21	79
笠原	俊久	7・23	67
北村	満子	7・23	96
佐藤	栄子	7・24	92
大崎	淳子	7・25	77
岩尾恵美子		7・26	82
藤井	芳郎	7月中旬	81
髙瀬	晁	8・12	87
藤井	昭三	8・24	94
兵頭	桃子	8・27	72
前田	貢	8・27	77
宮崎	貞夫	8・31	87
高田	駒子	9・2	96
林	靖幸	9・3	85
濱田	義雄	9・7	86
若林	一夫	9・12	69
井上	節子	9・22	88
中村	芳郎	10・12	88
旭が丘			
岡山市			
生江浜			
殿川			
東本町			
一番町			
富岡			
金浦南			
浜中			
福山市			
倉敷市			
城見台			
殿川			
鴨駅前団地			
住吉			
茂平西			
小平井			
鴨方駅前団地			
川辺屋			
下追分団地			
西大島			
鴨方町			
吉浜南			
里庄町			

浄土真宗

教えとそのあゆみ

私たちの宗門（11）

聖教（8）

宗祖のご撰述

『尊号真像銘文』一巻又は二巻
（そんごうしんぞうめいもん）

宗祖が、その当時に本尊として安置された名号や絵像の讃文を集め、その内容を解説したものです。題号のうち、「尊号」とは本尊としての名号という意味で、六字・九字・十字などの名号がありますが、その讃文からみて十字名号であろうと推定されます。また「真像」とは善導・法然などの浄土真宗伝統の祖師の肖像画のことです。そしてそれらの名号や絵像の上下に書かれた経典などの讃文のことを「銘文」といいます。

その内容は、本願力によって、どのようなものも本願を信じるそのときに正定聚の位にさだまり、往生と同時に仏のさとりを開くという浄土真宗の法義を解説し、またその法義を示された祖師がたを讃嘆したものです。

建長七年（一二五五）のときの略本（一巻）と、正嘉二年（一二五八）のときの広本（二巻）があります。

『唯信鈔文意』一巻
（ゆいしんしょうもんい）

法然門下の先輩にあたる聖覚法印の著『唯信鈔』に引用されている経釈の要文を和解して註釈を施したものです。人びとが唯信鈔の意を受け取りやすいように懇切に説き示し、深遠な解釈を施して、浄土真宗の法義をより明らかにしたものです。

康元二年（一二五七）の作です。

『一念多念証文』一巻
（いちねんたねんしょうもん）

専修念仏は一念多念のいずれにも偏執しない、念仏往生の義であることを明らかにしたものです。

一念とは浄土往生は信心ひとつで決定（けつじょう）する、または一声の称名で決定する、とするもので、これに対し一生涯、数多くの念仏を称え、臨終来迎をまって浄土往生が決定すると主張する多念義との論争があり、宗祖は信友であった隆寛律師の主張に賛同しこの書を著わしました。康元二年（一二五七）の撰述です。

その他に御消息とか文書とが伝えられていますが、

① 御消息（善性編）
② 血脈文集（編者不明）
③ 末灯鈔（従覚編）

などは、いずれも聖人の書翰をとり集めたもので、互いに重複しているものなどを整理しますと全部で三十六通になります。この他にも聖人の真筆のものが六通ありますから、聖人の御消息として今に伝わるものは、四十二通になります。

令和４年（2022年）年回表

年回忌	往生年
１周忌	令和３年
３回忌	令和２年
７回忌	平成28年
13回忌	平成22年
17回忌	平成18年
25回忌	平成10年
33回忌	平成２年
50回忌	昭和48年

該当のお方には別途お知らせいたしますが、遺漏することもありますので、ご留意、ご確認の上、ご法要の日を早めにご相談ください。

境内清掃のつどいにご参加を！

毎月15日に「境内清掃のつどい」を開催しています。

13時半より、境内の草取りや清掃をしていただき、一服してから3時ごろ解散です。

掃除道具は寺で準備します。

1月、8月、9月はお休み。6月と7月は朝7時半からです。

無理のない範囲で和気あいあいとやっていますので、どうぞお誘い合わせてご参加ください。

編集後記

境内の澄み切った青空の中、安穏を謳い青い鳥小鳥が飛び交っています。

七月の虫干し法座、九月の秋季彼岸会・永代経法要等の諸報告、今後の予定として、お取越し報恩講、除夜会・修正会、年回表等をご案内する第一三七号の浄心寺だよりをお届けします。法座、法要等にご参拝くださり、お聴聞して仏縁に遇われますようにお願いします。

（編集委員　U・）